

第4期（平成27～29年度）

# 西部ブロックまちづくり計画

西部ブロックまちづくり委員会

平成27年3月

## 目 次

第1章. 第4期計画の策定にあたって	…	1～ 1
第2章. 西部ブロックの現状と特性		
1. 地域資源（自然・歴史・文化）	…	1～ 3
2. 人口	…	3～ 5
3. 産業	…	5～ 7
4. 道路・下水道・交通・通信等	…	7～ 8
5. 医療・福祉	…	8～ 8
6. 教育	…	8～10
第3章. ブロックの課題		
1. 概観	…	10～10
2. 課題	…	10～11
第4章. ブロックまちづくり活動の方向性		
1. まちづくりの基本方針	…	11～11
2. まちづくりの取り組み	…	11～11
第5章. 第4期事業計画		12～12



三瓶川などの支流を合わせ蛇行しながら日本海へ注いでいます。その流域には長久町から静間町にわたる田園が広がっています。

また、五十猛町野梅地区には、温泉（源泉温度 28℃程度）の湧出地区があり、温水プールとして利用されていましたが、平成 27(2015)年 3 月に解体されました。

## ②歴史

古代神話に始まり、日本書紀によると、素戔鳴尊（スサノオノミコト）は、五十猛命（イソタケルノミコト）、大屋津姫命（オオヤツヒメノミコト）、抓津姫命（ツマヅヒメノミコト）の 3 人を従え、伝承によれば大浦の神島に上陸したと言われています。

五十猛町は、五十猛命から名付けられたと伝えられ、725 年に「磯竹」と改称され、明治 22(1889)年町村制施行により再び「五十猛村」に改められました。町内には、「韓郷山」「辛の崎」「神別れ坂」「逢浜」等、多くの神話に由来した名勝、旧跡が残っています。

また、「静之窟（しずのいわや、しずがいわや。静間町）」は、大己貴命（オホナムチノミコト。大国主の別称）、少彦名命（スクナヒコノミコト）の二神が、この岩窟にこもり国造りの神策を練られたと言われており、近くの静間神社はこの二神を主祭神としています。

「鳥井」の起源は、5 世紀初め、物部氏の石見進出の時、初めて鳥井に寄った物部氏を偲んで、後世、川合の一ノ宮の鳥居が建てられたのが、今の西鳥井辺りであったからとも言われており、「鳥居村」と呼んだ時代もあったようです。

## ③文化

当ブロックの文化は、海岸部の漁村と内陸部の農村に大別されますが、歳徳神や仮屋等をはじめ、地域の特性を活かしながら、住民による独自の伝統行事や伝統芸能が保存・継承されています。

### <主な伝統行事・伝統芸能>

#### ◎とんど焼き（、とんど）（長久町ほか）

もともと宮中行事であった火祭り「左義長」が、民間において「とんど焼き」になったと言われています。「左義長」は、三毬杖（三本の毬杖）で、毬を打つ槌の形をした遊び道具から起こったとの由来があります。

#### ◎子ども神楽（長久町）

明治 12(1879)年 1 月、土江舞子連中として結成され、正月 3 日の「仮屋」に舞われる古い伝統を持っています。伝統ある神楽も昭和の時代に次々と中断しましたが、住民から子ども神楽団の復活を願う声で、平成 12(2000)年、土江自治会・若者会・子ども会を中心に復活しました。

#### ◎グロ行事（五十猛町）

大浦地区に伝わる小正月（こしょうがつ。1 月 11 日～15 日）の伝統行事で、地域住民が集い、1 年間の無病息災・豊漁を祈願します。14 日夜は歳徳祭、翌 15 日にはグロを解体・とんど焼きを行い、正月行事を締めくくります。平成 17(2005)年に「五十猛のグロ」の名称で国の重要無形民俗文化財の指定を受けています。

また、湊地区にも同様の正月行事「歳徳さん」があり、五穀豊穰と無病息災を祈願します。

#### ◎盆踊り（鳥井町・静間町・五十猛町（・長久町））

五十猛町では、平成 17(2005)年に途絶えかけた盆踊りをボランティアによる実行委員会組織により存続しました。

長久町では、平成 2(1990)年に途絶えましたが、地元住民が実行委員会を組織し平成 27(2015)年 8 月の 25 年ぶり再開に向けた準備が進んでいます。

### <参考>地域の取り組み

製塩づくり	静間町	「塩づくり体験場」では、昔ながらの製塩技術を次世代に引き継ぐために、塩づくり体験を実施しています。
田舎ツーリズム 海の家“古浦”	静間町	民家に泊まって住民と交流する体験型観光の拠点施設として、平成 17(2005)年 5 月に「しまね田舎ツーリズム」の認定を受けました。製塩づくり、海水浴や魚釣り、研修や会議等に利用できます。
環境美化運動	4 地区	「環境美化デー」に合わせ市内一斉で行う環境美化運動、海岸や河川、静之窟等といった地域独自の環境美化運動に取り組んでいます。
花いっぱい運動	鳥井町	海岸山裾の月見草植栽、ツツジ公園の整備、県道沿いとりっ子花壇の整備を実施しています。
スポーツ大会	長久町	地域住民の交流の場として、2 ヶ月に 1 回の割合でスポーツ大会を実施しています。
青少年健全育成大会	五十猛町	昭和 37(1962)年より小学校の授業参観の後、地域住民が一堂に会し指示事項の確認を行うとともに講演会等により意識統一を図っています。
海と山のふれあい祭	五十猛町	「海の日」の行事として、地元の子どもたちに海上から郷土を眺めてもらう目的から始まり、山間部の小学生を海に招き交流し、沿岸の文化や自然について知ってもらう催しで、平成 26 年 7 月に 17 回目を実施。平成 24(2012)年からは山村留学センターこだま学園（三瓶町北三瓶地区）の子どもたちを招待し、五十猛小学校児童といそだけ保育園児とふれあうことができる祭りです。
運動会、文化祭	4 地区	毎年 9 月下旬から 11 月上旬にかけて、それぞれの地域において運動会や文化祭が開催され、若年者から高齢者まで世代を超えた交流が行われています。

## 2. 人口

「国勢調査」の人口統計資料を用いると、平成 22(2010)年の当ブロック人口は 6,923 人は市全体人口 37,996 人の 18.2%を占めますが、年少人口比率の当ブロックと市全体は 12.0%と 11.5% (0.5 ポイント高い)、高齢化率のそれは 30.9%と 34.6% (3.7 ポイント低い) となっています。

しかし、平成 17(2005)年と平成 22(2010)年の年少人口比率の減少割合 (△0.8%) や高齢化率の増加割合 (1.7%) は、大田市全体 (年少人口比率△1.4%、高齢化率 0.8%) を上回っており、近い将来、厳しい状況になることが予想されます。

また、人口の推移は、平成 17(2005)年 7,278 人と平成 22(2010)年 6,923 人を比較すると、この 5 年間で 355 人の減少 (△4.8%) となっています。特に、昭和 35(1960)年から昭和 45(1970)年にかけて人口の減少が著しく、10 年間で 2,003 人減少 (△20.2%) しました。

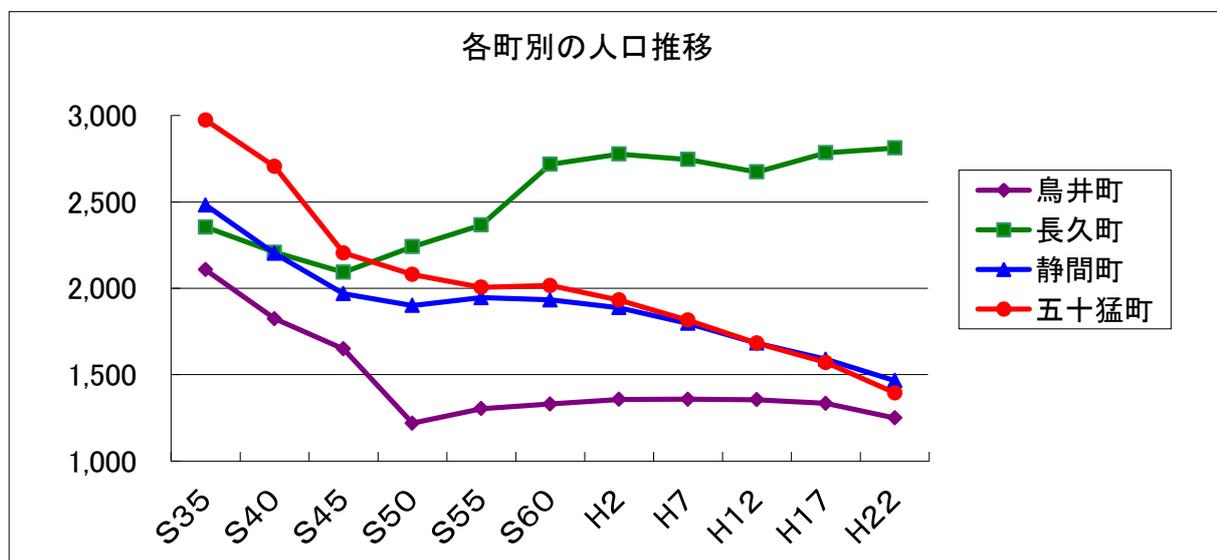
近年の人口推移をみると、昭和 60(1985)年以降は緩やかな減少カーブを描いていますが、少子高齢化に歯止めが掛かっていないため、今後も人口の減少が予想されます。

【地区別人口・世帯数】

各年10月1日現在（単位：人、世帯）

地区別	平成17年				平成22年				増減 H22/H17	
	人口			世帯数 x	人口			世帯数 y	人口 b/a	世帯数 y/x
	総数 a	男	女		総数 b	男	女			
鳥井町	1,334	617	717	445	1,249	581	668	435	93.6%	97.8%
長久町	2,785	1,313	1,472	963	2,813	1,337	1,476	1,027	101.0%	106.6%
静間町	1,589	734	855	517	1,466	691	775	498	92.3%	96.3%
五十猛町	1,570	751	819	530	1,395	671	724	502	88.9%	94.7%
ブロック 小計	7,278	3,415	3,863	2,455	6,923	3,280	3,643	2,462	95.1%	100.3%
旧大田市 小計	32,337	15,079	17,258	11,463	30,364	14,245	16,119	11,196	93.9%	97.7%
大田市 合計	40,703	18,897	21,806	14,804	37,996	17,761	20,235	14,312	93.3%	96.7%

資料：国勢調査



◆ 住民登録人口・世帯数・本籍人口

各年12月31日現在

年次	住民登録				1世帯 当たりの 人員	本籍人口
	世帯数	人口				
		総数	男	女		
平成16	16,236	42,251	19,787	22,464	2.60	80,337
17	16,180	41,617	19,495	22,122	2.57	79,330
18	16,201	41,145	19,318	21,827	2.54	78,187
19	16,191	40,607	19,053	21,554	2.51	77,139
20	16,126	40,010	18,786	21,224	2.48	76,059
21	16,142	39,583	18,614	20,969	2.45	74,814
22	16,070	39,069	18,373	20,696	2.43	73,655
23	16,082	38,527	18,146	20,381	2.40	72,083
24	16,234	38,345	18,040	20,305	2.36	70,817
25	16,076	37,707	17,790	19,917	2.35	69,617

資料：大田市市民課

## ◆. 人口動態

(単位：人、胎、件)

年次	自然動態			社会動態			人口増減	死産	婚姻	離婚
	出生	死亡	自然増減	転入	転出	社会増減				
平成18	285	570	△ 285	987	1,184	△ 197	△ 482	9	135	66
19	279	570	△ 291	931	1,178	△ 247	△ 538	5	175	58
20	255	615	△ 360	928	1,165	△ 237	△ 597	3	159	58
21	286	580	△ 294	916	1,051	△ 135	△ 429	4	155	86
22	269	589	△ 320	922	1,116	△ 194	△ 514	10	161	52
23	262	657	△ 395	941	1,088	△ 147	△ 542	8	152	58
24	245	644	△ 399	1,240	1,023	217	△ 182	6	152	39
<b>25</b>	<b>260</b>	<b>649</b>	<b>△ 389</b>	<b>943</b>	<b>1,192</b>	<b>△ 249</b>	<b>△ 638</b>	<b>6</b>	<b>154</b>	<b>57</b>
H25.1	20	64	△ 44	38	46	△ 8	△ 52	1	14	5
2	20	59	△ 39	51	50	1	△ 38	1	11	4
3	27	53	△ 26	163	327	△ 164	△ 190	0	22	7
4	28	57	△ 29	212	174	38	9	0	11	9
5	23	50	△ 27	73	106	△ 33	△ 60	2	10	2
6	20	46	△ 26	65	69	△ 4	△ 30	0	19	1
7	21	48	△ 27	56	80	△ 24	△ 51	1	11	2
8	20	56	△ 36	62	74	△ 12	△ 48	1	6	5
9	17	51	△ 34	49	66	△ 17	△ 51	0	15	5
10	21	62	△ 41	57	70	△ 13	△ 54	0	15	6
11	24	55	△ 31	63	69	△ 6	△ 37	0	15	8
12	19	48	△ 29	54	61	△ 7	△ 36	0	5	3

資料：大田市市民課

### 3. 産業

大田市の産業は、農林漁業を中心とする第1次産業、窯業や製造業等の第2次産業、商業やサービス業等の第3次産業が相互に関連し、成り立っています。

当ブロックは、日本海に面していることから鳥井漁港や和江漁港、五十猛漁港の3つの漁港を有し、多くの漁業就業者が生活していますが、近年、漁業資源の減少や漁価の低迷等により漁業生産額の減少に伴い、漁業就業者も減少しています。その中で、平成25(2013)年8月、市内4つの魚市場を統合した「JFしまね大田地方水産物卸売市場」が和江漁港に開所しました。

誘致企業では、高い技術力を有し、特徴あるものづくりを行う人工皮革製造業が地域の第2次産業を牽引していますが、長引く景気の低迷や海外移転等を背景に出荷額が減少しています。

商業では、長久町の川北地区・川南地区に郊外型大型店舗が次々と開店しており、購買力の市外流出に一定の歯止めはかかったものの、少子高齢化による地域購買力の低下や後継者不足等により、中心市街地をはじめ空洞化、衰退化が生じています。

◆産業(3部門)別就業者・割合、従業上の地位(2区分)別割合

平成22年

地 域	産業3部門別 就業者			従業上の地位別割合		年齢3区分別 人口		
	第1次	第2次	第3次	雇用者	自営業主・ 家族従業者	0～14歳	15～64歳	65歳以上
大田市	1,985	4,765	11,130	80.4	19.6	4,372	20,456	13,162
[旧大田市]	1,563	3,764	9,163	81.2	18.8	3,655	16,665	10,038
(鳥井村)	71	155	366	81.8	18.2	134	685	429
(長久村)	106	309	969	88.5	11.5	409	1,663	739
(静間村)	148	239	330	76.9	23.1	165	824	477
(五十猛村)	100	211	344	83.2	16.8	126	773	496

平成17年

大田市	2,468	5,309	11,804	76.9	23.1	5,009	22,337	13,357
[旧大田市]	1,945	4,184	9,707	77.7	22.3	4,091	18,170	10,076
(鳥井村)	86	189	357	75.1	24.9	177	735	422
(長久村)	158	329	951	83.1	16.9	387	1,690	708
(静間村)	170	270	362	75.2	24.7	192	899	498
(五十猛村)	120	239	376	79.0	21.0	189	860	521

平成12年

大田市	3,010	6,544	11,332	74.3	25.7			
[旧大田市]	2,438	5,188	9,312	75.0	25.0	4,785	18,970	9,854
(鳥井村)	108	245	312	74.1	25.9	219	761	375
(長久村)	200	406	860	77.2	22.8	399	1,625	650
(静間村)	206	302	317	70.7	29.3	245	950	487
(五十猛村)	152	301	343	75.3	24.7	262	900	520

資料：国勢調査

◆旧町村別農家数・農家人口・経営耕地面積・経営耕地面積規模別農家数（販売農家）

平成22年2月1日現在

旧町村名	農家数（戸）				農家人口（人）			経営耕地面積（a）			
	総数	専業	兼業		総数	男	女	総 数	田	畑	樹園地
			第1種	第2種							
鳥 井	49	11	5	33	195	102	93	3,971	2,935	506	530
長 久	124	18	18	88	514	268	246	13,055	10,885	1,160	1,010
静 間	41	11	2	28	131	67	64	3,586	3,368	192	26
五 十 猛	30	7	-	23	108	54	54	2,891	2,557	250	84
旧大田市	1,191	344	91	756	4,287	2,157	2,130	117,861	93,710	20,026	4,125
市の合計	1,436	428	110	898	5,094	2,567	2,527	140,285	113,379	21,594	5,312

資料：2010年世界農林業センサス

注：販売農家＝経営耕地面積が30アール以上又は、農産物販売金額が50万円以上の農家。

## ◆漁業経営体数

各年11月1日現在

年次 地区別	総数	個人				会社	共同経営
		総数	専業	兼業			
				漁業が主	漁業が従		
平成15年	331	279	85	84	110	15	37
平成20年	271	217	59	78	80	15	39
鳥井	28	18	1	3	14	1	9
和江	51	28	3	10	15	8	15
五十猛	30	26	10	8	8	3	1
温泉津	45	43	16	11	16	2	-

資料：漁業センサス

## ◆自営・雇われ別漁業就業者数

各年11月1日現在

年次 地区別	総数	自営	雇われ
平成20年	499	189	310
鳥井	51	8	43
和江	141	16	125
五十猛	60	24	36

資料：2008年漁業センサス

## 4. 道路・下水道・交通・通信等

## ①道路・下水道

日本海に面している当ブロックは、鳥井町から五十猛町にかけて国道9号が縦断しており、その国道を中心に県道や市道等が連結しています。現在、国道9号に並走する線形の山陰道については、大田市管内5区間すべてが事業化され、当ブロック管内の「大田静間道路」「静間仁摩道路」も整備が進められています。

しかしながら、地域の所々に道路幅員の狭い箇所があり、道路沿道を覆う木々が通行の妨げとなっている箇所や子どもたちの通学路を含む生活関連道路の拡幅改良や歩道整備が求められています。

現在、山陰道・大田IC（仮称）及び静間IC（仮称）から国道9号を經由して海岸部へのアクセス向上、和江漁港のJFしまね大田地方水産物卸売市場へアクセス道路として、一般県道静間久手(停)線の鳥井町及び静間町地内整備（鳥井バイパス）、一般県道と和江港大田市(停)線：長久町（長久バイパス）及び鳥井町地区（船越坂）、また、一般県道久利静間線については、国道9号と主要地方道大田桜江線をつなぐ道路でもあり未改良区間である静間町八日市地内の改良が急がれます。

また、下水道事業は、大田市下水道基本構想に基づき整備事業が実施中です。

## ②交通機関

公共交通機関は、JRが運行する鉄道と石見交通が運行するバス路線があります。特に、バス路線はバス利用者が減少し、全ての路線において運行便数が減少していることから、市民生活の向上を図るためにも維持、確保に努めていく必要があります。

地域住民からは自動車、バス等の公共交通機関の確保や便数を増加する等の充実が求められています。

### ③通信

携帯電話の不感地帯(※2)は、各社とも中継局の整備に伴い解消されつつありますが、依然として山間部に入るとつながりにくい地域もあり、防犯や防災上の不安、定住促進の妨げとなっています。

また、災害時等に稼働していた「消防団緊急伝達システム」「モーターサイレン」は、平成27(2015)年4月1日、防災行政無線(※3)へ移行します。

※2 「不感地帯」とは 無線電波の届かない領域で、現在では携帯電話の電波が届かない地帯を指すことが多い。当ブロックにおいては、携帯基地局の不足などが原因で山岳地帯がその代表例である。

※3 「防災行政無線」とは 気象情報や災害時緊急情報、火災時の消防団招集情報、断水や環境汚染に関する情報などのほか、国が発信する緊急地震速報や武力攻撃情報などを受信し、無線伝達(サイレン及び音声)するシステムのこと。

## 5. 福祉・医療

### ①福祉

大田市では、地域で暮らす高齢者を介護、福祉、健康、医療等、様々な面から総合的に支えるため、「地域包括支援センター」を設置し、地域介護の中核拠点として活動を展開しています。

#### ◆福祉関係の統計数値

平成26年4月1日現在

区分		鳥井	静間	五十猛	長久	ブロック計	大田市計
世帯数	a	514	556	576	1,183	2,829	16,096
人口	b	1,240	1,456	1,426	2,923	7,045	37,568
65歳以上人口	c	450	504	526	800	2,280	13,449
高齢化比率	d=c/b	36.3%	34.6%	36.9%	27.4%	32.36%	35.8%
独居老人数(=世帯数)	e	89	101	125	147	462	3,166
独居老人比率(対世帯数)	f=e/a	17.3%	18.2%	21.7%	12.4%	16.33%	19.7%
独居老人比率(対人口)	g=e/b	7.2%	6.9%	8.8%	5.0%	6.56%	8.4%
独居老人比率(対65歳)	h=e/c	19.8%	20.0%	23.8%	18.4%	20.26%	23.5%
6歳未満人口	j	37	69	61	171	338	1,573
幼年者比率	k=j/b	3.0%	4.7%	4.3%	5.9%	4.8%	4.2%

出典:大田市市民課/社会福祉課

### ②医療

当ブロックには長久町を除いて医療機関がなく、不慮の病気やケガ等により、医師の診断が必要となった場合、大田市立病院や市外病院へ受診している現状があります。

また、医師の確保及び医師支援体制の整備が喫緊の課題となっていることから、大田市として医師や看護師の働きやすい環境づくりに努め、大田2次医療圏の中核病院である市立病院の医療従事者の確保と医療の充実を図る必要があります。

これらの課題解決として、現在、大田市では平成25(2013)年3月策定の「新大田市立病院建設基本構想」に基づき、新大田市立病院の建設工事が開始され平成29(2017)年度のオープンが予定されています。

## 6. 教育

平成21(2009)年4月から、各地域に設置されていた公民館が「まちづくりセンター」に変わり、ブロック単位に、人権問題や男女共同参画の研修、学校と連携した事業など社会教育を専門に行うブロック公民館が新たに設置されました。当ブロックでは「西部公民館(静間まちづくりセンター内)」となり、住民の生涯学習ニーズが多様化・高

度化する中、幅広く深みのある生涯学習を進めていく必要があります。

また、小学校は鳥井、長久、静間、五十猛の各地域に設置されており、中学校は、第一中学校、第二中学校に通学しています。

当ブロックにおいても児童及び生徒が減少し、今後も少子化が続くことが予想されることから、学校再編について検討が進められています。平成20(2008)年7月には大田市学校再編実施計画が策定され、平成28(2016)年度までに順次、再編・統合が進められていますが、西部ブロックの小学校においては、学年によって複式学級となる年度もあるなど、少子化の影響により学校規模の小規模化が見られます。子どもたちへより良い教育環境を整備するという視点で今後も検討が続けられます。

#### ◆小中学校の児童・生徒数及び学級数、幼稚園児数の一覧

##### ①小学校

毎年5月1日現在

小学校名	上段:学級数、下段:児童数			
	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
長久小	7	7	7	8
	182	184	177	168
五十猛小	7	6	5	5
	46	44	43	45
静間小	6	7	6	6
	56	51	56	58
鳥井小	8	8	7	7
	61	56	55	51
西部ブロック計	28	28	25	26
	345	335	331	322
小学校計	124	122	116	120
	1,787	1,794	1,770	1,733

資料:大田市教育委員会総務課

##### ②中学校

毎年5月1日現在

中学校名	上段:学級数、下段:生徒数			
	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
第二中	11	11	10	10
	276	280	263	245
中学校計	48	48	46	45
	937	922	918	895

資料:大田市教育委員会総務課

#### ◆保育所園児数

平成26年4月1日現在

町別	施設名	区分	定数	在園児数
鳥井	鳥井保育園	大田市立	45	47
長久	長久保育園	私立 ※平成24年4月1日、民営化	120	118
	たから保育園	私立	50	40
	こばと保育園	無認可	60	33
静間	静間保育園	大田市立	45	38
五十猛	いそたけ保育園	私立	45	47

資料:大田市子育て支援課

### ◆まちづくりセンターの概況

施設名	構造	建築年	面積	収容人数	備考
鳥井まちづくりセンター	木造平屋	昭和57年	370.8㎡	160名	
長久まちづくりセンター	鉄骨2階建	昭和63年	468.0㎡	300名	
静間まちづくりセンター	木造平屋	平成7年	570.0㎡	一名	※西部公民館
五十猛まちづくりセンター	鉄骨平屋	平成5年	471.6㎡	180名	

## 第3章. ブロックの課題

### 1. 概観

平成24(2012)年度に実施した『まちづくりアンケート』の「どのようなことに不安を感じているか」との設問に対して、西部ブロックでは「医療(19.9%)」「介護(19.8%)」「仕事(8.9%)」「交通(8.0%)」「災害(7.5%)」「買い物(6.6%)」「自治会活動の継続(6.5%)」…となっており、生活面において不安を感じている方が多いことが判明しました。

また、西部ブロックの独自アンケート項目では、「災害時用の非常持ち出し品を準備していない(75.4%)」や「地域での災害時緊急連絡体制が無い・分からない(81.8%)」など防災減災体制の課題も浮き彫りとなりました。

### 2. 課題

①大田市が実施する「環境美化デー」には市域の全戸が参加し、空き缶拾い等の環境美化活動をしています。河川(静間川)の美化活動には参加者が少ない現状があります。

今後、下水道事業が進み、水質汚濁防止対策や水環境整備等の重要性が一段と増すことが予想され、行政と住民が一体となって汚濁防止の取り組みに努める必要があります。

②海浜には、多くの漂着物(発砲スチロール、プラスチック、ロープ、魚網類等)が流れ着き、地域の貴重な自然環境を損なうとともに、怪我等人身上の事故や鳥類など野生動物の生息環境の汚染の危険性があります。

白砂青松や文化財(史跡、天然記念物など)等の地域資源を維持するとともに、後世に残していくためにも、地域住民と観光客が景観保全の大切さを学び、活動する必要があります。

③行政が実施する道路沿線(県道・市道)の除草は年1回程度であり、雑草の育成を抑制するには至っていません。

そのため、繁茂する雑草が視界を遮ることもあり、町内の交通事故の要因にもなっています。

また、休耕田、畑等の雑草も併せ、地域環境を損なう要因となっていることから、住民の手で除草作業等のボランティア活動を積極的に行う必要があります。

④盆踊り等の伝統行事や伝統芸能が消滅しつつある今日、地域に伝わる行事や芸能を保存・伝承していく必要があります。

あわせて、地域の世代間交流を一層進めるため、昔から伝わる行事(とんど、仮屋、グロ等)や芸能(土江子ども神楽等)を維持、存続していく必要があります。

⑤山林の荒廃や休耕田など遊休農地が増大し、並行しイノシシ、サル、カラスなどの鳥獣被害が増加していることを踏まえ、土地の有効活用と鳥獣対策を図る必要があります。

⑥地元産品の地産地消を推進する仕組みを作る必要があります。

⑦地域で知られていない名勝・旧跡・古墳等の地域資源を把握し、住民への情報発信を行う必要があります。

⑧人口減少、年少人口比率の低下、高齢化率の上昇、独居化、空き家の増加など将来的な不安要素があるため、自主防災組織づくりによる「まちの活性化」を図る必要があります。

## 第4章. ブロックまちづくり活動の方向性

### 1. まちづくりの基本方針

第3期計画に述べたまちづくりのテーマ「地域を愛し 人の輪ひろがる まちづくり」を、引き続きまちづくりテーマに掲げます。

### 2. まちづくりの取り組み

第2章-1に述べたブロックの地域資源を活かし、次に掲げるまちづくりの取り組みを推進します。

#### ①世代間交流

地域で取り組んでいる交流活動を通じて、地域の良さ及び地域性を高めるとともに、若者から高齢者までの世代間交流を深め、誰もが気軽に活動に参加出来る地域を目指します。また、みまもり活動や防犯活動にも力をそそぐ地域を目指します。

#### ②環境美化活動

地域全体で白浜の海岸や里山等の自然環境を保全することにより、地域の特色である自然の豊かさを再認識し、地域住民が身近に環境美化活動として取り組める地域とし、将来的に風景写真の撮影名所となるように目指します。

また、増大しつつある荒廃地化した里山や遊休農地の利活用を目指すとともに、これらの地帯への侵入と被害が増加してきたイノシシ、サル、カラスなどの鳥獣対策を行政機関等と調整しながら検討します。

#### ③あいさつ運動

地域の連帯感が失われつつある今日、日頃から子どもへの声掛けを行うとともに、大人同士も声を掛け合い、心の通う笑顔の絶えない明るい地域を目指します。

#### ④伝統行事の伝承

海岸部の漁村と内陸部の農村が持つ歴史や文化などの地域資源を活かし、次世代に伝承する活動を続ける地域を目指します。

#### ⑤まちの活性化事業

まちの活性化を図るために、「自主防災組織づくりによる防災減災活動」を推進し特色と魅力ある地域活動を目指します。

当ブロックでは、きたる第4期の重点方針に位置づけることとします。

## 第5章 第4期事業計画

第3期に実施した事業をベースとしつつ、西部ブロックまちづくりテーマ「地域を愛し 人の輪ひろがる まちづくり」に基づき、第4期の事業展開を下記のとおり計画し、西部ブロックまちづくり委員会としてブロック全体の活動及び取り組みとなるよう支援します。

### 第4期事業計画～重点方針は「(5)まちの活性化事業」として「自主防災組織づくりによる防災減災活動」

事業名	地区	第4期(H27～29年度)					新・継	備考	
		事業計画			H27	H28			H29
		内容							
(1)世代間交流の推進									
長久探検ウォーク!	長久町	長久町内7地区の各ポイントをウォーキング、昔の様子を聞いて歴史を学び、ふるさとクイズを実施する。H27から2順目。	○	○	○	H20～継続			
みまもりベンチ設置事業	全体	高齢者の集える場所、子供たちの見守り活動の拠点として西部ブロック内に設置したベンチを作成し、既存のベンチの維持・補修する。	○	○	休止予定	H22～継続			
(2)環境美化運動									
休耕田活用事業	全体	休耕田にひまわり、コスモスなどの花を栽培して景観保全するとともに、写真撮影会などの活用を行う。	○	○	○	H19～継続	H19-25:鳥井町 H26-:五十猛町		
花・人ライトアップ事業	全体	西部ブロック内の花や行事等を、発電機と移動式照明等を使ってライトアップを実施する。	休止	休止	再開予定	H24-25	H26～休止		
荒廃地景観形成事業	全体	西部ブロック内の荒廃地の景観形成(森林景観の復元やスポット広場の形成)により、憩いの場を創出	○	○	○	H26～	H26試行		
(3)あいさつ運動									
あいさつ運動	西部公民館	小学生に「あいさつ運動標語」の作成を依頼し、入選作品をA3サイズのポスター各家庭や職場へ掲示することによりあいさつ運動を推進する。	○	○	○	H19～継続			
西部カレンダー配布事業	全体	町別に、各種行事や検診日、ゴミ収集日等を掲載したカレンダー(あいさつ標語入り)を、毎月全戸配布する。	○	○	○	H22～継続			
(4)伝統行事の伝承事業									
食の伝承事業	静間	地元で獲れる魚のさばき方教室。	○	○	○	H19～継続	魚のさばき方はH23から継続		
神話の町歴史散歩事業	五十猛	五十猛町の神話に関する場所をウォーキングしながら学習を実施する。	○	○	○	H24～継続			
(5)まちの活性化事業									
防災のまち事業	全体	H25、4町合同で災害防災減災講演会。H26、4町合同で、第1回災害図上訓練 H27、4町ごとに個別の災害図上訓練し、自主防災組織の立ち上げ準備。準備の整った所から自主防災組織発足、「4町オリジナル防災マップ」作成、訓練実施	○	○	○	H25～継続	第4期計画では重点事業とする		